

令和6年度農作物有害動植物発生予察情報 発生予報第6号（9月）

令和6年8月28日
山形県病害虫防除所

[概要]

園芸作物：**りんごの褐斑病、果樹共通害虫の果樹カメムシ類の発生量はやや多い予想です。**圃場をこまめに見回り、防除を徹底してください。

夏秋きゅうりの炭そ病の発生量はやや多い予想です。発病葉や収穫残さは速やかに圃場外で適切に処分し、降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行ってください。

秋冬ねぎのシロイチモジヨトウ、畑作物・園芸作物共通害虫のオオタバコガの発生量はやや多い予想です。圃場をよく見回り早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を徹底してください。

次の発表は9月25日の予定です。

予報内容一覧

作物名	病虫害名	発生量
だいず	マメシンクイガ	—
りんご	斑点落葉病	—
	黒星病 褐斑病	やや多い
ぶどう	輪紋病・炭そ病	—
	べと病・褐斑病	—
もも	せん孔細菌病	平年並*
西洋なし	輪紋病	—
日本なし	黒星病	—
果樹共通害虫	果樹カメムシ類（り・も・な・か）	やや多い
	ナシヒメシンクイ（り・も・な）	平年並
	モモシンクイガ（り・も・な）	—
夏秋きゅうり	炭そ病	やや多い
秋冬ねぎ	褐斑病・べと病・斑点細菌病	—
	葉枯病	平年並
	さび病	—
	ネギアザミウマ	平年並
	ネギハモグリバエ	平年並
野菜共通害虫	シロイチモジヨトウ	やや多い
	ヨトウガ（ね・え）	—
畑作物・園芸作物共通害虫	オオタバコガ（豆・夏・ね・え・き）	やや多い
	ハスモンヨトウ（豆・か・夏・ね・え・き）	平年並

（ ）内 豆：だいず、り：りんご、も：もも、な：なし（西洋なし、日本なし）、か：かき、夏：夏秋きゅうり、ね：秋冬ねぎ、え：えだまめ、き：きく

* 感染量

山形県病害虫防除所	本所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
	庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382
山形県病害虫防除所トップページ	https://agrin.jp/theme/byogaichubojosho/index.html		
農作物有害動植物発生予察情報	https://agrin.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html		

1. 合成ピレスロイド剤等を使用する場合は、市町村農作物有害動植物防除協議会等で定めた地区に限って使用し、蚕・魚類に対する被害を防止する。
2. 耐性菌・抵抗性害虫の出現を防止するため、薬剤の選択及び使用回数に留意する。
3. **品種ごとの収穫時期を考慮し、使用時期（収穫前使用日数等）を厳守する。**
4. **農薬の使用に当たっては、登録内容（農薬使用基準）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意する。また、使用後は防除日誌の記帳に努める。**
5. 農薬の空容器や空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に行う。

予報根拠中の記号 (+)：発生量を多くする要因 (－)：発生量を少なくする要因

I 普通作物

1. だいず

(1) マメシクイガ

フェロモントラップでの初誘殺は県予察圃場（山形市）と地区予察圃場（酒田市）でいずれも8月4半旬（平年：8月4半旬）と平年並であった。薬剤散布は8月下旬及び9月上旬（前回散布の10日後）の2回が基本であり、9月上旬にも必ず実施する。十分な防除効果を得るために、莢まで薬剤が付着するようていねいに散布する。

II 園芸作物

1. りんご

(1) 斑点落葉病

8月27日現在の発生量は平年並であるが、発生が多い園では、9月上旬～中旬に有機銅を含む薬剤を散布する。

(2) 黒星病

8月27日現在の発生量はやや少ないが、向こう1か月の天候は、降水量が多いと予報されているため、感染拡大が懸念される。

今後の感染拡大を防止するため、以下の対策を実施する。

ア. 葉摘み時に発病葉や発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

イ. 薬剤散布予定日に降雨が予想される場合には、降雨前に防除を行うとともに、9月中も散布間隔があきすぎないようにする。

ウ. 薬剤散布に当たっては、不要な徒長枝はせん除し、樹冠内部への薬液到達性を高めるとともに、十分な薬液量（500L以上/10a）でていねいに散布する。また、スピードスプレーヤにより防除する場合は、走行速度や散布経路に注意し、散布ムラを防ぐ。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(3) 褐斑病	やや多い

1) 予報の根拠

- ア. 8月27日現在の発生量はやや多い。(＋)
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 降雨が続くと発生が多くなるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。
- イ. 不要な徒長枝はせん除し、樹冠内部への薬液到達性を高めるとともに、散布ムラが生じないようにいねいに薬剤散布を行う。

(4) 輪紋病・炭そ病

炭そ病の発病果の初確認は8月21日（平年：8月24日）とやや早い。発病果は二次伝染源となるので見つけ次第摘み取り適切に処分する。また、例年発生が見られる園では、9月上旬～中旬に薬剤散布を行う。

降雨が続くと果実への感染が多くなるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。

2. ぶどう

(1) ベと病・褐斑病

8月27日現在の発生量は平年並である。デラウェアで発生が多い園では9月上・中旬に防除を行う。大粒種では9月上旬に棚上面から防除を行うとともに、収穫後遅れないよう防除を行う。

3. もも

病 害 虫 名	予 報 内 容
	感 染 量
(1) せん孔細菌病	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月27日現在の発生量はやや少ない。(－)
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 次年度の伝染源密度の低減を図るため、収穫後できるだけ早く（9月上旬～）無機銅剤を2週間おきに2～3回散布する。
- イ. 台風等により早期に落葉すると、落葉部位からの感染が多くなるため、台風の通過前や降雨前に薬剤防除を徹底する。

4. 西洋なし

(1) 輪紋病

本病は9月も感染するので、9月上旬及び中・下旬にも防除を行う。

5. 日本なし

(1) 黒星病

8月27日現在の発生量は平年並である。園内の見回りを徹底し、発病果、発病葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

6. 果樹共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) 果樹カメムシ類 (クサギカメムシ・チャバネカメムシ)	りんご・もも・なし・かき	やや多い

＜5月23日付け 発生速報第1号発表＞

＜8月23日付け 発生速報第8号発表＞

1) 予報の根拠

ア. 8月27日現在、西洋なし及びかきの被害果の確認地点率は平年よりやや高い。

(+)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(+))

2) 防除上注意すべき事項

ア. 気温や湿度の高い日に果樹カメムシ類の園内への飛来や吸汁加害が多くなる傾向があるため、園内をこまめに見回り、樹上の寄生や被害果の発生に注意する。

イ. 園内で成幼虫の寄生や被害果が確認される場合は、速やかに捕殺や薬剤散布を行う。また、加害は収穫期まで長期にわたるので、園内の見回りを継続する。

ウ. 台風の通過後に、園内に多飛来する場合がありますので注意する。

エ. 薬剤の選定に当たっては「山形県病虫害防除基準」を参照し、果樹カメムシ類に効果の高い剤で防除を実施する。なお、各樹種の品種ごとの収穫開始時期を考慮し、収穫前使用日数を厳守する。また、薬剤抵抗性出現を防止するため、同一系統の薬剤の連用を避ける。

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(2) ナシヒメシンクイ	りんご・もも・なし	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月27日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の気温は高いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. もも、西洋なしは特に被害を受けやすいので、園内をよく見回り、被害果は見つけ次第摘み取り適切に処分する。
- イ. 被害が見られる園では、9月上旬の薬剤防除を徹底する。 薬剤の選定に当たっては「山形県病害虫防除基準」を参照し、ナシヒメシンクイに効果の高い剤で防除を実施する。なお、各樹種の品種ごとの収穫開始時期を考慮し、収穫前使用日数を厳守する。また、薬剤抵抗性出現を防止するため同一系統の薬剤の連用を避ける。
- ウ. 本種の活動時間帯（18～22時頃）の気温が15℃以上の日が続くような場合には、必ず9月中・下旬にも防除を行う。
- エ. 薬剤散布を行う場合は、薬液が樹冠内部の果実にも付着するようていねいに散布する。

(3) モモシンクイガ（りんご・もも・なし）

8月27日現在の発生量は平年並である。園内をよく見回り、被害果は見つけ次第摘み取り適切に処分する。また、薬剤散布を行う場合は、薬液が樹冠内部の果実にも付着するようていねいに散布する。

7. 夏秋きゅうり

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 炭そ病	やや多い

1) 予報の根拠

- ア. 8月27日現在の発生量はやや多い。(＋)
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 薬剤散布は、薬液が葉裏まで十分付着するようていねいに行う。また、降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行う。
- イ. 伝染源密度低減のため、発病葉や収穫終了後の残さは速やかに取り除き、圃場外で適切に処分する。
- ウ. 適切な肥培管理を行い草勢維持に努める。

(2) 褐斑病・べと病・斑点細菌病

8月27日現在の発生量は平年並であるが、降雨が続くと発生が増加する恐れがあるので、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行う。なお、発病葉や収穫終了後の残さは取り除き、圃場外で適切に処分する。また、草勢が低下しているとまん延しやすいので、適切な肥培管理を行い草勢維持に努める。

8. 秋冬ねぎ

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 葉枯病	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月27日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。(＋)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。
- イ. 降雨が続く場合は、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。

(2) さび病

8月27日現在の発生量は平年並である。肥料切れによる草勢低下や多肥栽培で発生が多くなるので、適切な肥培管理を行う。また、降雨が続く場合は、薬剤の散布間隔があきすぎないように防除を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(3) ネギアザミウマ	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月27日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 圃場をよく見回り、生息密度が高くなる前に防除を徹底する。また、薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。
- イ. 薬剤抵抗性の出現を防止するため、作用性の異なる薬剤グループを輪用散布する。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(4) ネギハモグリバエ	平年並

1) 予報の根拠

- ア. 8月27日現在の発生量は平年並である。
- イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 圃場をよく見回り、生息密度が高くなる前に防除を徹底する。また、薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。
- イ. 薬剤抵抗性の出現を防止するため、作用性の異なる薬剤グループを輪用散布する。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(5) シロイチモジヨトウ	やや多い

<8月9日付け 発生速報第7号発表>

1) 予報の根拠

- ア. フェロモントラップにおける8月4半旬までの総誘殺数は、県予察圃場（寒河江市）、地区予察圃場（酒田市）ともに多い。
- イ. 県内各地で卵塊や幼虫及び被害が確認されており、8月27日現在の発生量はやや多い。（+）
- ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 圃場をよく見回り、早期発見に努める。なお、これまで被害が見られていない圃場や薬剤防除を行った圃場でも被害が急増することがあるので注意する。
- イ. 卵塊や、幼虫が寄生している葉は見つけ次第取り除き、適切に処分する。
- ウ. 薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、卵塊確認時や若齢幼虫期（葉の先端が白く透けた時）に薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。
- エ. 他県では、合成ピレスロイド剤の効果が低下している事例が確認されているため、薬剤の選定に留意する。また、薬剤防除後にも被害の拡大が見られる場合には、異なるグループの薬剤を散布する。
- オ. 台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、発生動向に十分注意する。
- カ. 本種は広食性でねぎの他、アスパラガス等の野菜、きく、トルコぎきょう等の花き、だいず等の畑作物等、多くの作物を加害するので注意する。

9. 野菜共通害虫

(1) ヨトウガ (秋冬ねぎ・えだまめ)

8月27日現在の発生量はやや少ない。圃場をよく見回り早期発見に努め、薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫期に行う。

10. 畑作物・園芸作物共通害虫

病虫害名	対象作物名	予報内容
		発生量
(1) オオタバコガ	だいず・夏秋きゅうり・秋冬ねぎ・えだまめ・きく	やや多い

＜5月24日付け 発生速報第3号発表＞

＜6月24日付け 注意報第1号発表＞

＜7月26日付け 発生速報第5号発表＞

1) 予報の根拠

ア. フェロモントラップにおける8月4半旬までの総誘殺数は、県予察圃場（山形市、寒河江市）、地区予察圃場（鶴岡市）のいずれの地点でも多い。

イ. だいずやきく等、幅広い品目で幼虫及び被害が確認されており、8月27日現在の発生量はやや多い。(+)

ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 圃場をよく見回り早期発見に努める。

イ. 被害部位（果実、花蕾、新芽等）や収穫残さは、内部に幼虫が生息している場合があるので適切に処分する。

ウ. 薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫期に、薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。

エ. 薬剤抵抗性の出現を防止するため、作用性の異なるグループの薬剤で輪用散布を行う。また、薬剤防除後にも被害の拡大が見られる場合には、異なるグループの薬剤を散布する。

オ. 台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるため、今後の発生動向に注意する。

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(2) ハスモンヨトウ	だいず・かき・ 夏秋きゅうり・ 秋冬ねぎ・えだまめ・ きく	平年並

< 8月9日付け 発生速報第7号発表 >

1) 予報の根拠

- ア. フェロモントラップにおける8月4半旬までの総誘殺数は、県予察圃場（山形市）、地区予察圃場（鶴岡市）ともに平年並である。
- イ. だいずの巡回調査圃場、かきの地区予察圃場（酒田市）では、若齢幼虫及び葉の被害が確認された。
- ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 圃場をよく見回り早期発見に努める。なお、本種は畑作物、果樹、野菜、花き等多くの作物を加害するため、周辺の作物も含めよく観察する。
- イ. 卵塊や、ふ化直後の幼虫の集団が見られる葉は、取り除き適切に処分する。
- ウ. 薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、卵塊確認時や若齢幼虫期に薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。
- エ. 薬剤抵抗性の出現を防止するため、作用性の異なるグループの薬剤で輪用散布を行う。また、薬剤防除後にも被害の拡大が見られる場合には、異なるグループの薬剤を散布する。
- オ. 台風や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるため、今後の発生動向に注意する。

[発生予察情報で使用される時期、量の表現の基準]

1. 時期

平 年 並	平年値（過去 10 か年の平均）を中心として前後 2 日以内
やや早い	平年値より 3～5 日早い
ややおそい	平年値より 3～5 日おそい
早 い	平年値より 6 日以上早い
お そ い	平年値より 6 日以上おそい

2. 量（発生量、発生面積及び被害量等）

過去 10 年間の値を、発生が多い順に下図のように並べ、本年の値との比較により求めます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
←多い→	← やや多い →	← 平 年 並 →					← やや少ない →	←少ない→	

東北地方 1 か月予報 (08/24～09/23)		
2024年08月22日14時30分 仙台管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう 1 か月 08/24～09/23	天候	東北日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率 80% です。
	降水量	降水量は、多い確率 50% です。
	日照時間	日照時間は、東北日本海側で平年並または少ない確率ともに 40% です。
1 週目 08/24～08/30	気温	1 週目は、高い確率 80% です。
2 週目 08/31～09/06	気温	2 週目は、高い確率 80% です。
3～4 週目 09/07～09/20	気温	3～4 週目は、高い確率 60% です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう 1 か月 08/24～09/23	
		1 週目 08/24～08/30	
		2 週目 08/31～09/06	
		3～4 週目 09/07～09/20	
降水量	東北地方	向こう 1 か月 08/24～09/23	
日照時間	東北日本海側	向こう 1 か月 08/24～09/23	
	東北太平洋側	向こう 1 か月 08/24～09/23	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)